

聖年のキーワードその1：免償

ヨベルの年を起源とする聖年の最大の特徴は、免償、しかもすべての償いを赦免する全免償です。順序だてて説明しましょう。

〈免償とは〉

免償とは、すでに赦された罪に対する有限の罰の神の前におけるゆるしです。ふさわしい心構えを有し、一定の条件を果たすとき、これを獲得できます。免償には、有限の罰からの解放が部分的であるか全体的であるかによって、部分免償と全免償とに分けられます。（『カトリック教会のカテキズム』より）ゆるしの秘跡を受ける際に「償いとして…」と言われますが、それが犯した罪の償いに十分かどうかは分かりません。死を迎える際に償いを果たし終えていなければ、煉獄で一定期間過ごすこととなります。

〈全免償とは〉

すべての償いを一気になくす全免償については次のように定められています。受けられるのは1日に1回のみ。（死が差し迫っている場合は、別にさらに全免償を享受することができる。）そのための条件として、信者は恵みの状態にある（大罪の状態にない）ことが必要とされ、さらに次の条件を満たしていなければなりません。①どんな小さな罪をも避ける決心を持ち、全免償を受けたいとの望みを持つこと。②ゆるしの秘跡に与ること。③聖体拝領をすること。④教皇の意向のために祈ること。

上記の四つの条件は、免償が与えられるその日にすべてを満たすことが望ましいとされますが、少なくとも免償が付与される前後約20日以内にすべてが満たされていればそれで十分とされます。教皇の意向のための祈りについては信者が自由に選択できますが、「主の祈り」1回と「アヴェ・マリアの祈り」1回が勧められます。同時期に異なる全免償を得るためには、ゆるしの秘跡は1回のみで十分（つまり、月に1度ゆるしの秘跡に与っていれば、条件をずっと満たしていることになる）とされますが、聖体拝領ならびに教皇の意向のための祈りはそれぞれの免償ごとに果たす必要があります。（『内赦院規定 2000年1月29日』）

これらの条件を満たした上で、全免償のために規定された行いをすることによって、自分あるいは死者のための全免償を受けられます。全免償を譲り受けた死者は、すぐに天国に行けるということです。

全免償のために規定されて行いは数多くあります。例えば、十字架の道行きや家族でロザリオの祈りを唱える、三日間以上の黙想会に与る、などです。

〈聖年の免償〉

聖年にあたって、内赦院は免償の特別な規定を発表します。聖年のすごいところは、ほぼあらゆる信心の行為や慈善のわざが全免償となることです。ローマを始めとした巡礼指定教会に巡礼することが基本ではあるものの、次のように規定されています。「重大な理由でさまざまな荘厳な典礼への参加や、巡礼や聖なる訪問ができない信者（とくに男女の隠世修

道者、高齢者、病者、受刑者、また、病院や他の看護施設で継続的に病者に奉仕する人々は、同じ条件のもとに聖年の免償を受けることができます。…そばにいる信者と心をつにし、自宅または自分がとどまらなければならない場所（たとえば、隠世修道院、病院、看護施設、刑務所の礼拝堂）で、主の祈り、認可されたかたちでの信仰宣言、聖年の目的にかなう他の祈りを唱え、自分たちの苦しみと生活の困難をささげること」「信者は、困窮や困難のうちにある兄弟（病者、受刑者、孤独な高齢者、障害者…）をふさわしい頻度で訪問することにより、聖年の免償を受けることができます。…信者は間違いなく、聖年の期間中、このような訪問を繰り返すことにより、毎日でも、そのつど全免償を受けることができます」（内赦院 2025 年通常聖年の間に与えられる免償に関する教令）

このようにして、自分自身が罪の償いから、また特に煉獄にいる死者がその償いから〈解放される〉恵みの年が聖年なのです。

聖年のキーワードその 2：巡礼

教皇フランシスコは聖年に際しての大勅書『希望は欺かない』においてこう述べています。「巡礼が、聖年のすべての行事の基本要素であることは偶然ではありません。旅に出ることは、人生の意味を探し求める人の特徴です。徒歩巡礼は、沈黙、苦勞、いちばん大切な物事、それらの価値の再発見に大いに有益です。来年も希望の巡礼者たちは、聖年の体験を充実させるため、古くからの道や現代の道を歩んで行くはずでです。」実際に、各地域での聖年開幕ミサにおいては、「巡礼の集合地に指定された教会堂を出発して、司教座聖堂に向かう巡礼行列は、神のことばに照らされて信者たちを一つにする、希望の道のしるし」とされています。また、バチカンにおいて聖年の間に行われる「〇〇の聖年」と呼ばれる週末行事においては、まずサンタンジェロ城から聖ペトロ大聖堂まで行列をして聖なる扉を通る式が行われます。

日本でも各教区において巡礼教会が指定されています。そのような教会を訪問する巡礼は、結果としてさまざまな教会を知ることになるとしても、「巡礼所は、歓待する聖所、希望を呼び起こす特別な場」（同大勅書）ですから、巡礼する人たち自身に、また免償の恵みを譲り受ける死者たちにとっての〈解放〉の旅とするのが本来の目的です。「聖年の免償は、祈りの力によって、わたしたちより先に召された人々が満ち足りたあわれみにあずかれるよう、特別な方法で彼らのためにも意図されているのです」（同大勅書）

指定された教会を「訪れ、そこで適切な時間、聖体礼拝と黙想を行い、終わりに主の祈り、正式なかたちでの信仰宣言、神の母マリアへの祈願を唱え」（内赦院 2025 年通常聖年の間に与えられる免償に関する教令）たり、聖年の祈りを唱えたりすることによって、聖年の豊かな恵みを受ける「希望の巡礼者」（聖年のロゴマークより）となることができるでしょう。

さあ、聖年の巡礼に出かけましょう！